

市民アンケート確定値

資料1

到達度凡例		
H24年比	矢印	件数
目標値超	↑	4
上昇	↗	11
維持	→	2
下降	↘	8

アンケート結果からみると、上昇傾向にあるもの15、維持2、下降したもの8となっており、前回と比較すると上昇した指標60%、維持8%、低下した指標32%となっている。

【傾向】
 ○子どもや働き盛り世代、取組みの開催件数等の成果指標(アウトプット)は比較的上昇している。
 ○食育に関心がある市民のなど意識・行動変容に関する成果指標(アウトカム)は比較的下降している。

<食育の推進>

※項目①②⑨⑪⑬⑭⑯⑰⑱は市民アンケート結果により算出。
 ※項目④⑤⑥⑦⑩⑫⑮については関係団体等の取組み報告により計上。
 ※項目③のうち※印は教委より提供、その他はアンケートより算出。

項目		H24年度	確定値	目標値	到達度	
①	食育に関心がある市民の割合	73.4%	69.1%	90%	↘	
②	「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる共食の回数の増加」※ 1週間のうち朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数	10回	10回	さらに増加	→	
③	1週間あたりの朝食について	幼児	95.3%	96.2%	100%	↗
	※幼児は「毎日食べる割合」	小学5年生※	0.9%	0.9%	0%	→
	※他は「ほとんど食べない」と答えた割合	中学2年生※	2.0%	2.6%	0%	↘
		20代男性	29.4%	22.6%	15%	↗
		30代男性	29.4%	16.2%	15%	↗
	65歳以上	3.7%	1.8%	0%	↗	
④	体験型食育活動の取組み (実施園数/全施設数) 【保育園】	公立	100%	100%	100%	↑
		私立	90.4%	94.8%		↗
⑤	体験型食育活動の取組み (実施園数/全施設数) 【幼稚園】	公立	100%	100%	100%	↑
		私立	100%	100%		↑
⑥	授業参観・懇談会等で保護者へ食育の啓発を行った学校の割合	48.5%	46.7%	60%	↘	
⑦	企業、大学等での食育に関する講座の開催(件数)	19件	29件	30件	↗	
⑧	栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合	69.0%	67.9%	80%	↘	
⑨	内臓脂肪症候群の予防や改善のために適切な食事、定期的な運動、定期的な体重測定を継続的に実践している市民の割合	27.7%	32.1%	50%	↗	
⑩	食育の推進に関するボランティア数	1,208人	1,410人	1,600人	↗	
⑪	食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合	52.9%	57.1%	65%	↗	
⑫	「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」における連携活動した団体等の割合※保育園・幼稚園が他団体と連携して食育に取り組んだ割合	37.6%	62.7%	60%	↑	
⑬	農林漁業体験を経験した市民の割合の増加	37.7%	27.5%	50%	↘	
⑭	進んで地元農産物を購入する市民の割合	69.4%	68.3%	80%	↘	
⑮	学校給食における地元農産物をしようする品目数	39品目	40品目	45品目	↗	
⑯	家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	49.2%	45.5%	70%	↘	
⑰	ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけをしている市民の割合	69.9%	66.9%	75%	↘	
⑱	熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合	80.8%	81.8%	85%	↗	

市民アンケート調査結果に見る低下した成果指標に関

食育の推進

1 成果指標

No	項目	H19	H22	H24	H27	目標	新目標
①	食育に関心がある市民の割合	76.0%	75.6%	73.4%	69.1%	90%	—
③	1週間あたりの朝食について ※幼児は「毎日食べる割合」 ※他は「ほとんど食べない」と答えた割合 中学2年生	2.9%	1.7%	2.0%	2.6%	0%	—
⑧	栄養に関する表示等を参考にしている市民の割合			69.0%	67.9%	80%	—
⑬	農林漁業体験を経験した市民の割合の増加			37.7%	27.5%	50%	—
⑭	進んで地元農産物を購入する市民の割合			69.4%	68.3%	80%	—
⑯	家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合	63.9%	54.9%	49.2%	45.5%	70%	—
⑰	ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけをしている市民の割合	67.0%	69.1%	69.9%	66.9%	75%	—

<p>【現状】 前回調査より4.3ポイント低下し、目標とは20.9ポイント差に広がった。</p> <p>【考察】 平成27年度食育白書によると、「食育に関心を持っている国民の割合」が70.5%⇒68.7%と減少し、全国的に低下傾向にあり、本市においても若年層（学童期～青年期）の食育への関心の低下が見受けられる。 （調査報告書P99～参照）</p>
<p>【現状】 前回調査より0.6ポイント低下し、目標とは2.6ポイント差に広がった。</p> <p>【考察】 朝食の欠食については、家庭の食環境によるものが大きい。学校においては、学校教育活動全体の中で朝食の重要性やその習慣化について指導を行っている。 （H27市調査）</p>
<p>【現状】 前回調査より1.1ポイント低下し、目標とは12.1ポイント差に広がった。</p> <p>【考察】 若年層（高校生期～青年期）の表示を参考にしていない割合の低下が大きく、性別では男性の低下割合が大きい。若年層の男性に対し、より一層の啓発が必要である。 （調査報告書P131～参照）</p>
<p>【現状】 前回調査より10.2ポイント低下し、目標とは22.5ポイント差に広がった。</p> <p>【考察】 参加したことがないと回答した市民の中で多くを占めているのが、中年期と高齢期の市民であり、高齢期では「関心がない」と答えたものが約半数を占めている。 乳幼児期～学童期では学校行事として参加する機会が多い、そのため青年期～高齢期で農林漁業体験を通じた食育の啓発がより一層求められる。 （調査報告書P175～参照）</p>
<p>【現状】 前回調査より1.1ポイント低下し、目標とは11.7ポイント差に広がった。</p> <p>【考察】 全体的には微減であるが、青年期の「あまり購入していない割合」が大きい。食育の関心が高い人ほど地元産を購入する傾向があり、食育と地産地消を相互にアピールしていくことが必要である。 （調査報告書P177～参照）</p>
<p>【現状】 前回調査より3.7ポイント低下し、目標とは24.5ポイント差に広がった。</p> <p>【考察】 「取り入れていない割合」は、男性が大きく、中でも青年期と壮年期の割合が大きい。青年期と壮年期の男性に対し、より一層郷土料理の周知や伝承をしていく必要がある。 （調査報告書P185～参照）</p>
<p>【現状】 前回調査より3.0ポイント低下し、目標とは8.1ポイント差に広がった。</p> <p>【考察】 「いつも心がけている割合」が増加しているものの、「どちらともいえない割合」が割合の多くを占めており、結果として減少している。若年層（高校生期～青年期）の割合が低いことから、より一層の啓発が必要である。 （調査報告書P190～参照）</p>